

1 教育方針

(1) 教育目標

一、知性を愛し、自ら学ぶ喜びに燃えよう 一、視野を広め、豊かな事故の創造に努めよう 一、心身を鍛え、たくましい覇気と行動に徹しよう

(2) 校訓 友愛、自由、平等、団結

2 学校経営

(1) 目指す学校像 知徳体の調和のとれた「地域の未来をひらく人材」を育成する学校

(2) 育成する生徒像 ①自ら学ぶ生徒 ②人間性豊かな生徒 ③心身を磨く逞しい生徒

(3) ありたい教職員像

子供たちへの愛情にあふれ、豊かな人間性を備えた教職員

同僚性を育み、自らの専門性を高める教職員

前向きでチャレンジ精神にあふれた教職員



働き蜂 勤労  
羽根 勉学  
胴体 高等学校

★ 評価はABCの3段階

A:良い B:概ね達成 C:改善が必要

3 学校自己評価

観点	重点目標	具体的方策	方策の評価指標	年度総括		項目	評価
				指標の結果	評価		
指導力向上	教務部 生徒の実態を把握し、教材研究力を向上させ、授業を改善する	①生徒の授業アンケートを2回行う。 ②探究型授業や主体的学習の研究を進め、授業改善を進める。	アンケートの肯定的な回答が過半数。 各教科から授業研究の計画、実施報告を求める。	・授業アンケートで肯定的な回答が73.9%(1学期)から77.9%(2学期)に上昇 ・観点別評価に関する研修会を実施し、主体的学習について研修を実施	C	①	B
	教務部 教科毎に、ICT活用等の研究を進める(効果的な指導法の共有)	教科毎にICTや補助教材の有効な活用を図る。	生徒の授業評価で肯定的な回答が80%以上	・学校評価アンケートで89.6%(1学年)、99.4%(2学年)、88.6%(3学年)の生徒が肯定的評価	B		
	教務部 様々な学習場面において、思考力・判断力・表現力を効果的に育むために、ICTの活用を推進する	学習センター一部の管理するICT機器を適切に配置し、活用しやすい環境づくりを行う	ICTを活用した授業数の増加(教員対象アンケートによる)	・教員向けの研修会を実施した。	B		
	情報デジタル部 校内のGIGAスクール構想の構築と運用を適切に進め、端末を活用したICT教育の研究を進める	①生徒教職員の端末の管理運用を適切に行う。 ②校内の情報機器の管理・更新など、利用しやすい環境づくりを行う。 ③職員への情報提供や研修を企画・実施する。 ④教務部、進路探究部との連携を密にする。	生徒・職員の評価	・学校評価アンケートで89.6%(1学年)、99.4%(2学年)、88.6%(3学年)の生徒が肯定的評価	B		
学力向上	進路探究部 希望進路を達成するための確かな学力を身に付けさせる	平日講習及び長期休業中の講習・セミナーを実施して、進路目標が達成できる学力の確立を図る	模擬試験の成績：各学年設定の目標偏差値以上 国公立大合格者数：難関大1~2名、MARCH1~2名。国公立大50名程度 普通科共テ受検率90%程度	普通科の共通テスト受検率90.2%(完全型受検率59.4%) 総合型選抜・学校推薦型選抜による国公立大学合格者12名 総合型選抜・学校推薦型選抜によるMARCH以上の合格者2名(指定校以外)	-	②	B
	[3年] 進路目標達成に向けて学力を向上させる	放課後学習会、平日講習、夏冬期講習、二次対策講習を通し志望校合格に向けた学力を付けさせる	共通テスト得点率60%以上が40人以上 国公立大合格者数50名	60%以上13名 総合型、学校推薦型で11名	-		
	[2年] 進路目標を明確にしなが、学力を向上させる	模試分析をふまえた教科指導を充実させる	1月ベネッセ総合学力テスト 平均ss52以上 ss55以上50人以上	11月模試ss55以上15人 平均偏差値48.0	B		
	[1年] 高校の基礎学力を身に付けさせる	①考查前学習会や長期休業中時に講習を実施する ②スタサボや模試の結果分析による教科指導の検討	1月進研模試でss55以上が60名以上	未(1月進研結果は2月中旬予定)	B		



学習環境	教務部	読書に親しむ環境を整備し、書籍や情報を活用した主体的な学びを支援する	教科、学年との連携を密にして、生徒の興味・関心を考慮した図書館資料の充実を図る	学習センターの利用状況の調査 貸出状況の調査	利用率は前年度比-70% 貸出数1456冊(前年比-1000冊) 赤本貸出数、放課後学習利用率は前年比50%増	C	○学センのDX化(スマホ検索、HP開設)を行った。 ○朝学習で読書に取り組む学年があった。 ▼学センの利用の仕方に変化が見られた。	⑥	B
	情報デジタル部	校務用PCや職員アカウントなどの情報に関する業務を的確に行う	ICT機器の管理と情報のセキュリティ管理を充実させる。	職員の学校評価		B	○セキュリティソフト更新は先生方のご協力ですべて実施できています。年度末の人事異動に伴う業務の準備をしていく。 ▼HDMIケーブルやマグネットスクリーンの破損が目立った。※6本、2枚。		
	[3年]	校内の本や新聞、ICT機器を最大限活用して、思考力・表現力を育てる	朝学習や授業、探究・進路学習において、本や新聞、ICT機器の活用を推奨する	本や新聞、ICT機器を活用した探究論文の提出100%	提出率は93%	B			
	[2年]	読書を奨励し、思考力や表現力を育て、進路を意識させようとして小論文指導に取り組む	①朝学習・LHR等を通して集団読書を充実させる ②読書感想文の指導を行う	①図書平均貸出冊数4冊以上を維持 ②読書感想文の提出率100%	平均4冊には届かなかった。 読書感想文の未提出者がいた。	B	▼学セン使用頻度の低下がみられる。		
	[1年]	生徒が本や新聞など、活字に触れる機会を提供するとともに、様々な学習場面において積極的にICTを活用する	①朝学習の時間を活用し、新聞記事を通して様々な話題に興味関心を持たせる ②授業・LHRの時間にICT機器を活用し、生徒の理解を高める	①生徒への図書の平均貸出冊数を4冊以上に維持。 ②アンケートの肯定的回答の増加。	① ②90%	B	▼情報収集はほぼスマホに限定され、活字にに触れる機会はほぼ見られない。 ○授業でプロジェクターが効果的に使用されている。		
	総務部	新たな感染症等の感染防止対策励行のもと、生徒が安全に学校生活を送れるように学校の環境整備を行う	①避難訓練(2回/年)を実施する ②施設安全点検を月に1回行い、校舎の危険箇所を早期に見出すとともに備蓄品の点検を行う ③奨学金の申込みの指導を適切に進める	学校評価(生徒版・保護者)で肯定的高評価合計が70%以上	①避難訓練で意識が高まった生徒の割合(AB) 1年:85.2%、2年:92.4% 3年:97.5%	B	○2回の避難訓練を実施することができた。 ○施設安全点検を計画通り実施し、学校環境の改善に繋げることができた。		
	総務部	学校運営が円滑に進むようにする	職員会議・式典を円滑に行う 放送設備のセッティングや調整を行う	職員にアンケートを実施し、良かった点や改善点を職員で共通理解できたか。また学校評価(教職員)で肯定的高評価合計が70%以上		C	○各行事毎にアンケートを実施し職員会議に資料として報告している。 ▼その都度対応しているが、放送設備が古くなっておりトラブルが多くなっている。		
	保健部	環境の美化に貢献できる公共心を育む	①丁寧な清掃活動 (男子トイレ小便器トラップ・黒板周辺・ベランダの強化) ②雑巾がけの徹底(毎週火曜日、複数回可) (砂・埃の拭き取り強化) ③生徒による清掃点検の実施 (生徒保健委員会環境整備班が毎月1回実施)	清掃点検のA評価80%以上 (前年度A評価: 69.5% B:28.6% C:1.9%)	A=57.8%(69.5) B=31.1%(28.6) C=11.1%(01.9) ( )は前年度比	C	○清掃点検の成果が現れ、継続力がついてきた。(徐々に向上) ○ワックス塗布により、溜まっていた汚れをきれいにできた。 ▼隅々の清掃、ベランダ、上拭きを丁寧に。 ▼ゴミの分別の徹底		
	[3年]	自発的に環境美化に努め、愛校心を育む	①丁寧な清掃活動ができるようにする ②始業時に教室内整頓を確認する	学校評価アンケートで清掃AB9割以上	AB100%	A	○全てAが3回あった。		
	[2年]	公共心や協調性を育て、学習効果を高めるために環境美化を推進する	①丁寧な清掃活動ができるようにする ②始業時に教室内整頓を指導する	清掃点検で評価Aが90%以上	評価Bが多かった	B	▼細やかな清掃指導をしていく必要がある。		
[1年]	身の回りの環境に目を向けさせ、それを改善しようとする公共心を育てる	①丁寧な清掃活動ができるよう指導する ②生徒一人ひとりが公共の空間であることを認識し、整理整頓に努めるよう指導する。	清掃点検で、「清掃が徹底されている」のA評価が90%以上		B		⑦	B	

目標設定	進路探究部	進路意識の高揚を図り、高い志を貫き通すことができるようにする	①適切な時期及び内容の進路講演会や研修会を実施する ②「志望理由書」を2年で完成させ、生徒個々の志望を組織的に把握する	①進路講演会後のアンケート調査で肯定的な回答が8割以上 ②2年3月までに「志望理由書」を完成	進路研修会アンケート 1学年 生徒70.9% 保護者87.7% 2学年 生徒85.4% 保護者95.0% 3学年 生徒83.6% 保護者96.2%	B		⑧	A	
	[3年]	受験システムを理解させ、進路希望を明確にし、高い志を維持できるよう努める	①受験についての情報を保護者と共有する ②進路ガイダンス・研修会を開催する	学校評価アンケートで、進路行事AB8割以上	AB83.6%	A	○各クラス共に保護者との面談を丁寧に実施			
	[2年]	面談・家庭との連携・外部体験活動等あらゆる機会を捉えて進路の明確化を図る	①学習ガイダンス・進路ガイダンス・進路研修会を実施する ②志望理由書を作成させる	①アンケート調査での肯定的な回答が8割以上 ②志望理由書模試の受験率100%	A:大いに役に立っている22% B:役に立っている63.4%	A	A			○多くの生徒の進路意識の高揚につなげるの明確化につながった。
	[1年]	進路学習や研修会を通して進路意識を高める	①学習ガイダンス・進路ガイダンス・進路研修会・山形大学訪問を実施する ②大学等の外部の講座への参加を促進する	①アンケート調査での肯定的な回答が8割以上 ②志望学部学科を具体的に回答した生徒が増加	①71%	B				
基本的生活	生徒部	生徒一人ひとりに規範意識を定着させることで、安心安全な学校環境づくりを推進する	①交通事故0(ゼロ)維持日数を掲示する ②いじめ案件に対し迅速かつ組織的な対応をとる ③頭髪服装検査を定期的に実施する ④自転車点検および登下校時の安全指導の充実を図る	交通事故件数1桁。 特別指導事案発生件数前年度比50%減	80%超が評価	B	○コロナ禍で様々な制限のある中、創意工夫し各種委員会は活動してくれた	⑨	B	
	保健部	互いに多様性を認め合い、誰もが安心して学校生活を送れるように支援する	①生徒・保護者・教員が健康相談にアクセスしやすい環境をつくる(年間計画で相談日を25日→27日に増、HPでもわかりやすくPRする) ②当該学年と保健部が連携し、特別な支援を要する生徒(学習支援を含む)へきめ細やかな対応をする	健康相談件数が増えることは、相談につながるスキルや健康に対する意識が向上していることと捉えることができる。相談件数の増を「健康相談」活用力の向上とした。		B				
	体育部	自己管理ができる生徒を育成する。	①学校を休まないで登校する。 ②文武両道を実践する。	①出席率99.2%	2学期 出席率 98.8%	C	○3年99.2% ▼2年98.9%、1年98.2% コロナ禍により欠席、遅刻、早退に対する認識が甘くなったことは否めない。			
	[3年]	基本的生活態度を身につけ、良識ある行動がとれる生徒を育成する	①私物管理を啓蒙する ②時間管理を指導する	①パソコンの紛失無し ②朝学習の定刻開始	①コード紛失1名 ②特定の遅刻数名	B				
	[2年]	基本的生活習慣を身につけ、主体的行動ができる集団づくりを推進する	①時間管理を指導する ②生活習慣の指導	①遅刻者の人数 前年比で減少 ②classiでの生活時間調査入力徹底	遅刻者は少ない スマホ利用時間増加生徒10%	B	▼スマホの使用法や時間について			
	[1年]	基本的生活態度を向上させる	①生活リズム(三点固定)の大切さを強調する ②学校や社会の規律の遵守を指導徹底する。 ③スマホの適切な使い方を繰り返し指導する。	①学習時間調査、アンケートにおける学習時間、睡眠時間の確保 ②特別指導案件0 ③違反によるスマホ預かり件数10件以内に抑える	①75分 ②0件 ③15件	B				
集団づくり	生徒部	生徒一人ひとりに多様な場を提供し、集団を率いる力・集団に貢献する力の育成を推進する	生徒会各種委員会の自発的活動を支援する	学校評価(生徒版)で6割以上が評価	80%超が評価	B	○コロナ禍で様々な制限のある中、創意工夫し各種委員会は活動してくれた	⑩	A	
	[3年]	自律的な行動を促し、集団生活や社会的規範を意識した生活を送らせる	①集団行動でのルールを尊重させる ②生徒会活動への積極的参加を促す	学校評価アンケートで、生徒会および学校行事への参加意識AB8割以上	AB86.2%	A				
	[2年]	校外の多様な活動への参加を推進し、広い視野と協調性を育む	①他者との関り方の指導 ②生徒会活動への積極的参加を促す ③探究活動や修学旅行の充実	①重大いじめ案件0件 ②アンケート調査での肯定的な回答が8割以上 ③アンケート調査での肯定的な回答が8割以上	仲間意識・協力 肯定的回答A. B97.3%	A	○各行事を通して学校への帰属意識や人間関係が深まった。			
	[1年]	ボランティア活動や部活動 全校応援等の活動を通して他者を思いやる公共心を育成する	①各種競技の全校応援を通じて仲間を本気で応援できる心と帰属意識を高める ②他人の個性を認め、尊重しながら生活するよう指導する	①アンケート調査で肯定的な回答が60%以上 ②重大いじめ案件 0件	①90% ②1件	B	○野球応援を通して山形中央高の一員である事を実感できた。			

人間性豊かな生徒

キャリア教育	進路探究部	協調性に富み、社会に貢献しようとする姿勢を育成する	総合的な探究の時間を活用したキャリア教育を実践する	総合的な探究の時間に関するアンケート調査で肯定的な回答が8割以上	アンケートについては授業の終了時に実施予定	—	
	体育部	体育の授業を通して、スポーツの振興発展に寄与する生徒を育成する	①新教育課程に向けたシラバスを立案する。 ②体育授業の環境整備を行う。 ③担任・顧問による進路個別相談を実施する。 ④スポーツセミナーを実施する。	①シラバス作成 ②施設面の充実 ③進路指導の充実 ④キャリア育成の自己啓発	②第1体育館のwifi環境が整備された。 ③進路確定(79名/78名) ④スケート部OBの講演により自己啓発が図られた。	B	○R5年の全国学校体育研究大会に向けて、施設面の点検と整備を順調に行なうことができた。 ○進路では総合型選抜による希望進路実現を果たす生徒が増えた。 ▼第一志望の進路目標が達成されるように、早い段階での面談と準備のための指導が必要である。
	[3年]	成人としてそれぞれが社会人としての1歩を歩みだす	キャリア教育総合実践プログラムの集大成として、生徒が安心して進路決定に挑戦できる環境を整える	進路決定100%		—	
	[2年]	社会人としての資質を涵養する	総合的な探究の時間等を活用したキャリア教育を実践する	アンケート調査での肯定的な回答が8割以上	A.積極的な取り組みA50% B:46.8%	B	▼探究と進路が結びついている生徒が少ない。
	[1年]	社会と自分の関わり方を考えさせる	各種適性検査や進路研修会を通してキャリア教育を実施する	検査結果や進路行事のアンケート調査で、役に立ったという回答が8割以上	70%以上が役立ったと回答	B	
社会貢献	生徒部	豊かな人間性や社会性を育むために、部活動単位でのボランティア活動を推進する	各部にボランティア実施計画書・報告書を提出させ、具体的・実効的なボランティア活動の充実を図る。	学校評価(生徒版)で6割以上が評価		C	▼校内におけるボランティア活動以外に生徒会執行部と連携し、校外のボランティアを推奨していく。
	体育部	規範意識を持ち、協調性とおもいやりのある生徒を育成する	①各部でボランティア計画を作成する。 ②体育科集会を通じた規範意識を涵養する。	①ボランティアの実施状況 ②問題行動の件数	②問題行動 1件4名	C	○部活動単位で駐車場ライン引きのボランティア活動に意欲的に参加した。 ▼部内においていじめが発生した。各部活動内および体育科として人格を尊重する態度や考え方を啓発していくとともに、部活動経営・計画ならびに指導力の向上・改善を図る必要がある。
地域連携 保護者連携	総務部	学校の魅力を校外へ発信できるようにする	①HPを充実させ、学校の魅力を地域に発信する ②学校だより、PTAだより(年2回発行)を第六学区の回覧板に盛り込んでいただき、学校の様子が地域の幅広い年代層の方々にも伝わるようにする	学校評議員及び保護者の学校評価で肯定的評価が70%以上	①HPについて肯定的な保護者の割合(AB) 1年:57.4%、2年59.1% 3年:72.4%	C	▼HPの更新が進んでいない部分もあり、情報発信として不十分なところがある。
	総務部	在学生への社会的支援と家庭との連携に寄与する	奨学金制度を随時案内する	奨学金制度案内についての保護者からの苦情が0	奨学金の手続きに肯定的な保護者の割合(AB) 3年:67.9%	B	○問題なく奨学金の手続きを進めることができた
	総務部	PTA活動等を通して、保護者と連携を密にする	①一声運動を実施し、学校の様子を保護者に見ていただき、あいさつの励行を行う ②保護者による学校評価アンケートで調査する	①一声運動参加80%以上 ②学校評価(保護者)で肯定的評価が70%以上(活動参加は80%程度あり)	①43.9%	B	○一声運動の参加者は振るわなかったものの、高P連の研修会などPTA活動としては活発に行われた。
	情報デジタル部	家庭との連携を密にし、さくら連絡網の適切な運用を行う	生徒、保護者の利用率の向上に加え、職員への援助を適切に行う。	生徒・職員の評価 保護者登録率100%	登録者数790 (生:714,教:76) 利用者数780 (生:710,教:70)	B	○さくら連絡網年間を通した運用ができた。(生徒未登録4名・未達9名。)来年度の活用についてのご意見があれば伺いたい。 ▼端末の更新によるアカウント更新など
	[3年]	学校と家庭の連携を図る	①学年通信等の各連絡を確実に家庭に届ける ②保護者を対象とした進路研修会を開催する。	学校評価アンケートで、連携AB8割以上	AB83.6%	A	
	[2年]	学校・学年からの連絡等を迅速正確に伝え、諸行事への多数の参加を推進し、共通理解を持って生徒指導に取り組む	学年の活動状況をHPIに掲載し、積極的に情報発信する	①PTA総会・進路研修会出席率 70%以上 ②学校評価(生徒版、保護者版)AB 70%以上	97.8%が学年通信に目を通して	A	○8回の学年通信発行で情報発信はができた。 ▼HP充実について保護者の要望が多い
	[1年]	学校と家庭の連携を図り、学習環境の整備や生徒理解を深める	①学年便りを発行し、学校の様子を伝える ②HPへの掲載を充実させ、学年の魅力を発信する	①PTA総会出席率 70%以上 ②学校評価(生徒版、保護者版)AB 70%以上	①学年PT出席率51% ②学校評価保護者回答率 51%	B	

⑪

B

⑫

C

⑬

B

⑭

A

心身を磨く逞しい生徒

学習時間	進路探究部	学習習慣の定着と学習時間の安定的な確保及び伸長を目指す	学習時間調査を適宜実施・分析し、現状把握と適切な対処を行う	学年+1時間を目指す	1学年普通科 2時間以上8.0% 2学年普通科 3時間以上0.7% 3学年普通科 3時間以上3.3%	C	▼学習時間が全学年で不足している。学習支援ツールの活用なども含め、授業や課題のあり方を検討する必要がある。	⑮	C
	[3年]	3学年として効果的な学習習慣を確立させる	classiを活用して、目標計画にそった学習習慣を指導する。	平日学習時間4時間以上、休日6時間以上	年間トータルで平日3時間、休日6時間	B			
	[2年]	家庭学習の定着と学習時間の伸長を目指す	学習時間調査による分析をもとに適切なアドバイスを行う	学習時間調査での平均学習時間3時間以上	1～2時間 37.1% 0～1時間 54.8%	C	▼学年で学習時間調査を実施し、学習時間の確保を指導していく。		
	[1年]	家庭学習と隙間時間の使い方を工夫するよう指導し、学習時間の確保を目指す	学習時間調査による分析をもとに時間の使い方を指導する。	学習時間調査で平日の学習が2時間以上	平日に2時間以上している者は1割に満たない	C			
健康管理	保健部	主体的に自己の健康管理をし、健康で安全に暮らすための意識の向上を図る	①健康診断を実施し、その後の有所見者に対しての受診を徹底する ②精神保健に関する講演会を実施する ③感染症予防のため、登校前の検温と記録、および毎朝SHR時の健康観察を確実に実施する(さくら連絡網の健康チェックによる健康管理意識の向上) ④体育科職員や顧問と連携し、部活動での安全対策を行う ⑤「ほけんしつより」や保健委員会の掲示物での啓発活動を行う	①有所見者の受診状況の向上(昨年度:視力56.9% 歯科8%) ②講演会後のアンケート役に立つ85%以上(昨年度:薬物99% ストレス97%) ③健康観察簿提出100% ④夏季の部活動での熱中症対策(毎活動日) ⑤年間10回以上「ほけんしつより」発行	①視力38.7% ②90%以上 ③ほぼ100% ④実施 ⑤継続	B		⑯	B
	保健部	心身ともに明るく健康な生活を送れるように支援する	生徒保健委員会の研究活動を支援する ①健康や安全についての理解を深め、各自がそれぞれの心身の健康について見つめる機会とする。 ②具体的な対応について理解を深め、主体的に心身の健康管理をするための知識や力を養う。	研究過程実施するアンケート調査の結果		A			
	[3年]	安全・健康に留意し生徒自ら主体的に健康管理ができるよう意識を向上させる	①健康診断・各種検査の実施後の受信を呼びかける。 ②事故や怪我がないように健康観察による生徒の健康状態の把握する	①出席率99% ②有所見者の平均受診率50%以上	①二学期末97.8% ②26.1%	B	○保健部の呼びかけのお陰で自己管理も定着してきた		
	[2年]	健康で安全な学校生活を送るために主体的な自己管理能力の向上を推進する	①受診・治療の呼びかけ行い報告書の提出を徹底する ②感染症予防対策を主として、健康観察による生徒の健康状態を把握する	①有所見者の受診率は歯科50%以上、視力70%以上 ②健康観察の未入力者減少・出席率99%以上	出席率97.0%程度で低い出席率であった。	C	▼健康観察の未入力の指摘を受けた。		
	[1年]	健康で安全に暮らすために、主体的に自己の健康管理をする意識を向上させる	①健康診断・各種検査の実施後の受診を呼びかける ②事故や怪我がないように留意させる ③感染症対策の徹底させる	①有所見者の受診率は歯科50%以上、視力70%以上 ②振興センター災害給付申請件数50件以下	受診者は約5割にとどまっている	B			
	生徒会	生徒部	挨拶運動や全校応援を通して、山形中央高校への帰属意識の涵養を図る	①生徒会・学級委員会・自治員会によるあいさつ運動を実施する ②チーム中央の一体感を味わえるような壮行式や全校応援における充実した応援体制をとる	学校評価(生徒版)で6割以上が評価		B		
部活動	生徒部	部活動の指導を通して、競技力のみならず人間力の向上を図る	部活動目標シートの作成と掲示を行う	学校評価(生徒版)で6割以上が評価	90%超が評価	A	○部活動所属の多くの生徒が、積極的かつ意欲的に取組んだ。 ▼普通科の生徒が活動できる部活の整備が必要		
	体育部	全国大会で勝負できる力を持った生徒を育成する	①各部の活動をより一層充実させる ②施設の整備(人工芝のグラウンド整備等)を推進する ③優秀な生徒を確保するための手立てを検討する	①県大会優勝数10 ②全国大会出場数150(団体5) (夏季100・冬季30) ③全国大会入賞数30(団体1)(夏季10・冬季20)	①県大会団体優勝数19 ②全国大会出場数98(団体10) (夏季65・冬季33) ③全国大会入賞数10(団体1)(夏季9・冬季) ※いずれも1/18現在	B	○県大会優勝数19は昨年の8から飛躍的に伸びた。 ▼全国大会出場人数、入賞数は目標に届かなかった。各部とも「強い山形中央」を取り戻すように奮起していきたい。 ▼授業のための機材は充実できたが、施設の整備については今後も継続して要望をしていく。	⑱	A

学校経営	同僚性	管理職	職員の健康状態に留意し、休暇を取りやすい職場環境を整備するとともに、職員が自ら健康維持増進に努めるよう喚起する	①夏季特休・リフレッシュ特休・リフレッシュ年取得の推進、代休・振休の履行を徹底する ②健康診断後の再検査・精密検査を早期に実施してもらう ③職員の業務負担に目を配り、業務量の平準化に努める	①年休・代休・振休の取得環境についての職員アンケート昨年比 ②再検・精検100%の実施 ③一斉退校日の実施状況 ④年休5日以上取得者率88%以上(4月～12月)	①84.6%→85.3% ②79.5%(R3:79.3%) ③10回中3回達成(30%) ④85.0%→81.0%	C	▼再検等は年度内に。 ▼年休等取得環境を更に整える。(平均10.6日:昨年10.6日)	⑱	C
	専門性	管理職	教師に求められる指導力の向上を図る	①教員の力量を向上させるために研究授業や校内研修会を実施する ②校外研修会に積極的に派遣し、幅広い情報を職員間で共有する	①ICT活用の校内研修会を3回行う。 ②職員アンケートによる自己評価	①全体研修・遠隔授業・デジタル採点 ②研修計画実施 64.1%→79.4% 指導法工夫、改善 74.4%→82.4%	B	○研修会を開催することができた。様々な場面での積極的なICT機器の活用をお願いしたい。	⑳	B
	健康管理	管理職	協働的な働き方を推進し、同僚性を高める	①部長主任に働きかけ、分掌内で協働的な働き方を促進する ②退校時間が連日遅い職員に声掛けや面接を行い、業務の平準化を図れるよう部長主任と調整を行う	職員アンケートによる自己評価	業務の平準化 30.8%→50.0% 同僚性の確立 64.1%→76.5%	C	▼昨年度より、数値は増加したが、まだまだ平準化は進んでいない。	㉑	C

学校関係者評価委員の方々からのいただいたご意見・ご提言・ご要望等

- ①現在、民間企業でも健康経営が求められている時代です。管理職及び職員の健康診断後の健康指導や再検査についてどのように行っているのでしょうか。
- ②部内に於いてのいじめが表面化したことは残念に思います。
- ③さくら連絡網は次男の高校でも利用していますが、とても便利なツールだと思います。
- ④市内に於いて、芝生のグラウンドが整備されている学校が見受けられます。本校は体育科を擁する高等学校であります。そろそろ、芝生のグラウンドの設置は・・・。
- ⑤今後、中学校の部活動改革が進んでいく中、部活動が地域移行し、クラブ等に移行し、推薦入試等の基準も変わっていくのかどうか、見通しをお聞かせいただきたい。
- ⑥本校生徒が成長させていただいていることに感謝させていただきます。
- ⑦いじめ事案の発生については、残念であったが、他機関とも連携し、組織的な対応を望む。
- ⑧いじめ・新たな指導等、様々なことに対応していかなければならず、先生方のご苦勞も大変なものと察します。働き方改革を今後の進め、先生方が笑顔で勤務できるようにお願いいたします。

いただきましたご意見・ご提言につきましては検討し、次年度の指導に活かしていきたいと考えております。ありがとうございました。